祝辞

オペレッタ「チャールダーシュの女王」が、ここ倉敷にて盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

本公演は岡山では初めての開催であり、本市出身の佐藤智恵様のプロデュースによる、東京在住キャストと岡山在住キャストとが織り成す舞台に、御来場の皆様にはオペレッタならではの楽しさと魅力を満喫していただけるものと存じます。

本公演を主催されますMusica Celeste様は、様々な工夫を凝らしたオペレッタを通して、ともすれば敷居が高く感じられるクラシック音楽の世界を、誰もが楽しんで体感できる「エンターテインメント・クラシック®」として提供し広めることに邁進されており、本市での開催が、その大きな一歩となれば幸いでございます。

本市は平成30年7月豪雨により甚大な被害を受け、復旧・復興へ向けて全力で取り組んでいます。こういった中、本公演のような文化活動は、被災された皆さんに元気と勇気、そして未来に向かって前進する力を与えてくれるものであり、演者と観客の皆様が共に楽しめる、すばらしい舞台となりますことを心から願っております。

最後になりますが、本公演の御盛会、並びに御出演の皆様、御来場の皆様の御健勝と御多幸を祈って祝辞といたします。

倉敷市長　伊東香織

祝辞

「チャールダーシュの女王」岡山公演誠におめでとうございます。まさに芸術の秋本番です。エメリッヒ・カールマンが作曲したオペレッタ公演にふさわしい倉敷での開催、本当に嬉しいです。

Musica Celeste代表の佐藤智恵さんは倉敷市のご出身です。私はソプラノ歌手として大活躍の佐藤さんの大ファンであり、応援団の一人です。今日も素敵なシルヴァを演じて下さることと思います。

本日は倉敷はじめ岡山県の皆様にオペレッタの楽しさ、素晴らしさを実感して頂けることと思います。これからの日本はさらに文化芸術の振興が重要です。私も国政の場で文化芸術立国日本づくりに全力を尽くします。本日は誠におめでとうございます。

佐藤智恵後援会長／衆議院議員　逢沢一郎

ご挨拶

本日はオペレッタ「チャールダーシュの女王」に御来場くださいまして、誠にありがとうございます。

この度故郷倉敷にて大好きなこの作品を主催公演させて頂けることを心から嬉しく思い、岡山県内をはじめとする皆様のご支援・ご協力のお蔭と深く感謝いたしております。

お客様に感動をお届けすることを本旨とするエンターテインメント・クラシック®を商標登録し、故郷でもオペレッタ公演を開催することを大きな目標にして、これまで活動して参りました。本団体を代表的する人気作品に育てて参りましたこのオペレッタを通して、観客の皆様に沢山の感動をお届けできるよう、各地から集結してくれる大切な仲間たちと心を一つにして演奏致します。

そして今回1回で終わるのではなく、これから毎年エンターテインメント・クラシック®のオペラ・オペレッタの岡山公演を開催出来ますよう、作品作りとプロデュースに邁進していく所存です。今回の公演に共感して頂けましたら、アンケートのご記入やメルマガ登録、また公演の感想のSNS発信やお友達にもお話しいただき、来年もお誘いあわせの上ご来場いただけましたら幸いです。

この度の平成30年7月豪雨により被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。本公演の入場料の一部は、今回の豪雨で被災された方々の為に寄付させて頂きます。この公演を通して皆様の心を元気にする一助となれば幸いです。

岡山県倉敷市出身　ソプラノ歌手・Musica Celeste代表　佐藤智恵

Story

第一幕

20世紀初頭のブダペスト リッパート=ヴァイラースハイム侯爵家の御曹司エドウィンは、シアター・レストラン《オルフェウム》の歌姫シルヴァに夢中で、目前に迫った彼女のアメリカ公演を断念させようと、公証人に「8週間以内に結婚する」という証書を作らせる。シルヴァは喜んでこの申し出を受け入れ、アメリカへ行きをとりやめるが、エドウィンがウィーンの陸軍司令部に出頭するため立ち去った直後、彼が既にその従妹アナスタシアと婚約していることを知る。この婚約は父侯爵がエドウィンには内緒で決めたことだったが、裏切られたと思い込んだシルヴァは、《オルフェウム》の有力常連でアメリカ公演の企画者であるボニ（カンチアヌ伯爵）と共に、憤然として旅立つ。

第二幕

8週間後、侯爵夫妻は自邸でエドウィンの婚約発表パーティーを催し、そこへ帰国したシルヴァとボニがやって来る。シルヴァはボニに、ふたりは結婚したことにしてほしい頼み、カンチアヌ伯爵夫妻として紹介される。エドウィンは、ふたりの登場とその結婚に驚くが、シルヴァがまだ自分を愛していることを知り、望みを抱く。またボニは、久しぶりに再会したアナスタシア（シュタージ）にひと目惚れしてしまい、シルヴァとは夫妻だという設定を、自ら破ってしまう。パーティーの半ば、父侯爵が息子と姪との婚約を宣言しようとする直前に、エドウィンが「自分には、他に思いを寄せる女性がいる」とさえぎり、さらにシルヴァが「それは私」と認め、侯爵夫妻をはじめ来客一同大いに驚く。さらにシルヴァは、肩書きに頼ることを潔しとせず、あくまでひとりの歌手として生きていく決意で、自分は伯爵夫人ではなく、歌手のシルヴァ・ヴァレスクだと明かし、エドウィンの作らせた婚約証書を破り捨てる。一同の驚嘆・感動の中、シルヴァとボニは侯爵邸を去って行く。

第三幕

パーティーから数日後、ウィーン郊外のホテルにて、シルヴァとボニがすっかり気落ちした様子でグラスを傾けている。するとそこへフェリが現れ、シルヴァへ再び舞台へ戻ってくるよう説得をする。エドウィンは、シルヴァとボニが偽夫婦を演じたことに憤慨し、ボニを責め立てる。そこへ父侯爵が現れ、侯爵夫人もかつてはある劇場の歌姫であったことを知り、エドウィンとシルヴァの結婚を許すことを決意する。さらに、ボニとシュタージも結婚することが決まり、二組のカップルがめでたく誕生する。

Cast

シルヴァ（劇場の歌姫）
佐藤智恵

エドウィン（侯爵家の御曹司）
河野浩亮

ボニ（シルヴァの後援者）
持木 悠

フェリ・バーチ（劇場の大常連）
李 昇哲

シュタージ（エドウィンの従妹）
中野亜維里

ミシュカ（劇場支配人）
大岩主弥

侯爵夫人（エドウィンの義母）
保坂江利子

父侯爵（エドウィンの父）
藤川鉄馬

ピアノ
丸尾晃久

ローンスドルフ（エドウィンの従兄）　木庭稔雄

合唱アンサンブル
景山美香（倉敷市在住）
真田彰子（倉敷市在住）
田中成美（倉敷市在住）
水野洋子（笠岡市在住）